

## 早稲田佐賀高等学校 2年1組 渡邊創太

今回のプログラムを通して、スイスの美しい自然やかけがえのない友人たち、そしてヨーロッパの歴史など、数え切れないほどの貴重な出会いと経験を得ることができました。こうした素晴らしい体験ができたのは、多くの方々の支えがあったおかげです。本当にありがとうございました。ここでは、私がこのスイス留学プログラムで学んだ大きなことを3つに分けて述べたいと思います。

一つ目は「言語の重要性」です。授業はすべて英語で行われ、プレゼンテーションも多く、その度に何度も練習を重ねました。現地にはニュージーランド、カナダ、タイからの生徒もおり、彼らとの交流において英語は不可欠でした。最初は苦労しましたが、毎日英語に触れるうちに徐々に理解できるようになり、自信もつきました。

また、週末の遠足で訪れた地域はフランス語圏でしたが、スタッフの方々が英語を話してくださったため、不自由なく過ごせました。さらに、他国からの留学生と一緒に街を歩いたり、アクティビティに参加したりする中で自然と仲良くなれたのも印象的でした。この経験を通じて、言語を学び、それを使うことの大切さを改めて実感しました。

二つ目は「文化の多様性」です。プログラム期間中には四つの国からの生徒が集まり、寮生活を共にする中で意見のすれ違いや衝突もありました。しかし、それは互いの文化を理解し合うために必要な過程であると気づきました。現地の公文生たちが自然に多様性を受け入れる姿勢に強い衝撃を受け、私自身もそのようにありたいと思いました。

授業や日常生活の中で、他国の生徒が日本語を使おうとしてくれたり、夏祭りで一緒に盆踊りを踊ったりしたときは、特別な喜びを感じました。文化交流こそが人と人をつなぎ、ひいては「平和」への第一歩であると深く学びました。

最後に「人とのつながり」です。私の通う高校も寮制ですが、スイスの学校では特に学年を越えた交流が盛んである点に大きな違いを感じました。全校生徒は男女合わせて約70人と規模が小さく、放課後は皆でキッチンに集まって料理をしたり、広場で学年を問わずバスケットボールやバレーボールを楽しんだりする姿が日常的に見られました。

また、特に印象的だったのは「ファカルティーファミリー」という制度です。先生2人と生徒8人ほどが1つのグループになり、週に一度放課後に集まって活動を行うもので、学年や国籍を超えた交流を深める仕組みでした。留学生の私たちにとっても大きな支えとなり、人とのつながりが生活を豊かにすることを強く実感しました。

私は将来、国際関係の学問や仕事に進みたいと考えています。今回の留学で学んだ「言語の力」「文化の多様性」「人とのつながり」の大切さは、これからの高校生活や大学進学、さらには将来のキャリアにおいても必ず生きてくると信じています。この経験を糧に、グローバル社会で活躍できる人間を目指して努力していきたいです。